

# 堂本印象

堂本印象（一八九一～一九七五）は、京都市立美術工芸学校、京都市立絵画専門学校で学んだ後、西山翠嶂に師事し、帝展を中心に活躍した。昭和十九年に帝室技芸員、同三十六年に文化勲章を受章し、文化功労者となる。日本画家でありながら、洋風表現や油彩画、彫刻や工芸にも挑戦するなど幅広く活動し、大正十四年に大徳寺山内龍翔寺の杉戸絵を描いて以後は、醍醐寺や高野山など、数多くの社寺の襖絵や天井画等も手掛けて活躍した。

この作品は、昭和十四年、枢密院議長、内閣総理大臣を務めた伯爵清浦奎吾より献上されたものである。内堀の外から皇居をとらえた写生をもとに、洋風表現を加えた穏やかな作品に仕上がっている。貞明皇后から香淳皇后に引き継がれ、香淳皇后のお側にあった作品であった。

102

千代田城

昭和14年

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 香淳皇后の御絵と画伯たち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 43

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年三月二十七日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections